

神戸市における C 型肝炎対策

フィブリノゲン製剤納入先医療機関名の公表に際して

シバタニ ユウヘイ イノウエ アキラ カワカミ ヤスト
渋谷 雄平* 井上 明* 河上 靖登*

目的 フィブリノゲン製剤納入先医療機関名の公表に伴い、神戸市では相談窓口の設置に加えて C 型肝炎ウイルス（以下 HCV）の無料検査（年齢制限及び HIV 同時検査なし）を実施した。それらの分析結果より今後の C 型肝炎対策についての一考察を加えた。

対象と方法 平成16年12月、保健所、各区役所保健福祉部など市内12箇所に相談窓口を設置するとともに、「平成6年以前に、公表医療機関で出産や手術等の際に出血のためフィブリノゲン製剤を使用された可能性がある神戸市民で、その後 C 型肝炎検査を一度も受けられていない人」を対象として、平成17年3月末まで HCV 検査を実施した。HCV 抗体を測定し、陽性の場合には HCV-RNA にてウイルスの有無を確認した。

結果 （相談件数・内容について）3,717件の「相談」があり、女性3,145件（84.6%）、男性572件（15.4%）と女性が圧倒的に多かった。相談内容の主なものは、「肝炎検査について（検査場所、費用等）」、「過去に出産・手術をしたが大丈夫か」等であり、国の中間集計と同じ結果がみられた。

（C 型肝炎検査について）1,372人が検査を受け、女性1,165人（84.9%）、男性207人（15.1%）と、「相談」と同様に女性が8割以上を占めた。HCV 抗体陽性は32人（陽性率：2.3%）で、その内 HCV-RNA 陽性者は13人（陽性率：0.95%）であった。持続陽性者は60歳代で7人と最も多かったが、30歳代でも男性1人を認めた。平成13年の非加熱血液製剤の使用医療機関公表時の実績（HCV 抗体陽性率：8.2%）と比較すると、今回の抗体陽性率は有意に低かった（ $P<0.01$ ）。HCV-RNA 陽性率を節目検診（平成15年度）と比較してみると、女性では低く（0.60%）、逆に男性では高い傾向がみられた（2.90%）。特に69歳以下の男性では有意に高く（ $P<0.05$ ）、節目外検診における HCV-RNA 陽性率にほぼ匹敵していた。

結論 「相談」・「検査」共に女性が多かったことが特徴的であったが、フィブリノゲン製剤は過去に外科的手術だけでなく、出産時にも頻繁に使用された経緯があるためと推察された。この公表を契機として肝炎対策を一層推進するために実施された今回の措置は、大規模な節目外検診として有益であった。今後も年齢に拘らず、C 型肝炎の感染リスクのより高い者を対象として、積極的に検査の普及啓発を展開していくことが適切な対応と思われる。

Key words : C 型肝炎対策, フィブリノゲン製剤, 相談窓口, 肝炎ウイルス検査

* 神戸市保健所
連絡先：〒651-8570 神戸市中央区雲井通5丁目1-1
神戸市保健所予防衛生課 渋谷雄平